

いわき農林事務所ニュース

2007年 6月号



◎活動状況

- ・ [渡辺小学校の「田んぼの学校」\(その3\)](#)
- ・ [マコモタケの栽培体験活動](#)
- ・ [いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議開催](#)
- ・ [いわき地方農薬適正使用推進会議開催](#)

◎トピックス

- ・ [いわき市宮荻牧野開牧](#)
- ・ [いわき木材流通センター創立12周年記念市](#)
- ・ [いわき市植樹祭開催](#)

活動状況

○渡辺小学校の「田んぼの学校」(その3)

田んぼの学校の活動として5月は、16日に「生きもの調査」、22日に「田植え」を行いました。

「生きもの調査」では、5年生児童18名が、まず、学習田に隣接するビオトープで水辺の生物を採捕、種別の同定、個体数などを調査しました。アメリカザリガニ、アマガエル、ドジョウ等多くの魚類、貝類、昆虫類等を採捕することができました。

児童達は、田んぼの周辺が多種多様な生きものすみかになっていることを知りました。

つぎに、学習田等の泥の中に生息するイトミミズやユスリカ等の小さな生きもの(数ミリ程度)を採捕、顕微鏡観察を行いました。農林事務所職員が、イトミミズの糞が雑草の発芽を抑制すること、稲の肥料となることなど生態系の成り立ち等を説明しました。

児童達は、土の中にも小さな生きものが生息していること、またそれらと田んぼとの関わり、役割を学びました。

最後に、田植えに備え、土ならし(通称トンボ)で泥を押したり引いたりして田んぼをならし、この日の活動を終わりました。

「田植え」には、全校児童108名が参加しました。

地元農家の応援団の指導をうけ、5年生がうるち米(品種ふくみらい)を、他学年生が交代でもち米(品種まんげつ)の苗を植えました。農林事務所職員が、県の奨励品種である「ふくみらい」の来歴、特性等を説明しました。

苗植終了後、5年生は、除草及び肥料としての効果が見込まれる「米ぬか」を田全体に播



顕微鏡観察(生き物調査)



1・2年生の苗植(田植え)

きました。除草剤等農薬を使用しない、環境に配慮した米作りへの挑戦の始まりです。これを機に児童達の食の安全・安心についての興味・関心が高まることを期待しています。6月は、「土地改良施設見学会」「かかし作り」「除草」の各活動を予定しています。

○マコモタケの栽培体験活動が行われました

5月22日(火)、今年度から取り組まれる食彩ふくしま食育推進事業「食の楽校」の活動の一つであるマコモタケ栽培体験が行われました。

いわき地方における「食の楽校」は、既に取り組まれている「田んぼの学校」と併せて、渡辺小学校の児童を対象に行われます。

この日は「田んぼの学校」の田植えと併せて、5年生18名が一人一株ずつ、マコモタケの苗株の植え付けを行いました。教えてくださったのは、同じ渡辺町の農家、遠藤菊男さんです。遠藤さんは一昨年から転作作物としてマコモタケの栽培を始め、昨年4月には地区の仲間と「いわきマコモタケ研究会」を立ち上げ活動しています。



苗株の植え付け作業（踵で苗株の植え穴を掘っています！）

この日植え付けた苗は、これからどんどん生長し人の背丈よりも大きくなって、10月頃には株の根元が膨らみマコモタケが出来てきます。収穫したマコモタケで調理体験を行う予定ですが、児童達も食べたことがないとのことで、その味が今から楽しみなようでした。

○いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議が開催されました

5月29日(火)、県いわき合同庁舎において、野生鳥獣による農作物被害の軽減を図ることを目的とした、「いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議」が設置、開催されました。

いわき地方においても、イノシシなどの野生鳥獣による農作物被害が増えており、農業者の生産意欲の減退や耕作放棄地の拡大が懸念されるなど、農業振興にも影響がでてきていることから、会議では、関係機関・団体が被害防止対策について連携し、鳥獣による農作物被害の情報収集・提供と被害発生地域に対する総合的な被害防止対策の実施支援など、被害軽減に向けた対応を協議しました。

また、昨年9月に策定された「ふくしま食・農再生戦略」の戦略5に「環境と共生する農業の全県的な推進」が掲げられており、自然環境の一部を構成する野生鳥獣への対策を講じるうえで、より各地域における生態、行動の実態に視点を置いた効率的な対策となるよう、情報の提供や技術の普及が必要となることから、今後は被害発生地域の関係機関等との連携、技術的支援などを協議し、具体的な防止対策に生かしていくこととなります。



会議の様子

○いわき地方農薬適正使用推進会議が開催されました

5月29日(火)、県いわき合同庁舎において、いわき地方農薬適正使用推進会議が開催されました。

関係機関・団体、企業の代表15名が出席し、議長を務める県いわき農林事務所本田所長の挨拶のあと、協議に入りました。

協議では、県農薬適正使用推進方針、農作物病害虫防除指針、ポジティブリスト制度導入への対応について説明の後、意見交換が行われました。

特に、ポジティブリスト制度施行後、食品への農薬残留事故が増えてきていることから、病害虫防除指針に基づく適正な防除と農薬の飛散防止、防除器具の洗浄、農薬散布履歴の正確な記帳等の指導徹底や関係者の連携により、改めて適正使用に当たることを確認しました。

トピックス

○いわき市宮荻牧野が開牧しました

5月7日(月)、いわき市川前町下桶売にあるいわき市宮荻(おぎ)牧野が開牧しました。

当日は高原の清々しい風が吹き抜ける中、肉用牛約40頭が各畜産農家のトラックで運ばれて来ました。

開牧式の後、放牧される牛の確認作業等が行われ、作業が済んだ牛たちは、次々と元気良く駆け出して行き、さっそく牧草をはんでいました。

この放牧は11月中旬まで行われる予定で、この間には、県いわき家畜保健衛生所による定期検査が行われ、疾病発生未然防止に努めることになっています。



放牧を待つ肉用牛

○いわき木材流通センター創立12周年記念市が行われました

5月17日(木)、いわき木材流通センターの創立12周年記念市及び記念式典が、いわき市遠野にある同センター内で行われました。

記念式典では、木材関係者ほか約50名が出席し、根本 藏福島県森林組合連合会副会長のあいさつの後、本田久門いわき農林事務所長が、同センターの12年間にわたる素材の流通を通して、県産木材の円滑な供給に努められたことに対し、謝意を述べました。

記念市では、あいにくの天候不順ではありませんでしたが、それでも杉や赤松等の素材2,700m³の販売があり、スギ3m柱材は、立方1,800円(1,150円/1本)で取引されました。平成18年6月に立方9,000円



本田いわき農林事務所長祝辞

と昭和30年代の価格まで下落したものの、その後平成19年3月に価格14,000円となり、国産材復活の兆しが見られたものの、その後下落し、心配されましたが、ここにきて、下げ止まり感がみられました。その他については、スギ母屋角材が立方14,200円、中目材立方13,400円、ヒノキ柱材、立方18,000円(1,750円/1本)で取引されました。

○いわき市植樹祭が開催されました

5月26日(土)、第40回いわき市植樹祭がいわき市田人町の「田人おふくろの宿」で行われました。

本年度の緑化運動のテーマである「つなげよう 輝く未来へ 緑のバトン」の理念のもと、森・川・海を体系的にとらえた緑化思想の普及と環境保全を図るため、潤いと安らぎのある空間の創造を目指し、地元地区住民、林業、漁業関係者約300人が出席し植樹作業をしました。

櫛田市長が主催者として挨拶した後、来賓のいわき農林事務所本田所長が知事祝辞を、いわき市市議会議員、国会議員が祝辞を述べました。つづいて、田人二小児童と小名浜海洋少年団員が「豊かな緑ときれいな水と豊かな海を育てるため、海を緑の広場に出来るよう緑を愛し育てます。」と誓いの言葉を述べました。

その後植樹会場へ移動し、いわき市長と来賓、田人二小、小名浜海洋少年団の代表が同市の木である黒松を記念植樹しました。つづいて、参加者全員による植樹作業が行われ、ツツジ700本アジサイ60本が植栽されました。



櫛田市長の挨拶



植樹作業もみんなで頑張りました

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]